「徴税人レビを弟子にする」　2023年02月15日

その後、イエスは出て行き、レビと言う徴税人が収税所に座っているのを見て、「私に従いなさい」と言われた。彼は何もかも捨てて立ち上がり、イエスに従った。（ルカ福音書５：27～28）

イエスはお答えになった。「医者を必要とするのは、健康な人ではなく病人である。私が来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためである。」（ルカ福音書５：31～32）

その後、主イエスが町に出て行かれると、レビと言う徴税人が収税所に座っているのをご覧になった。主イエスは彼に、「私に従いなさい」と声をかけられた。すると、彼は何もかも捨てて、立ち上がり、従った。こんなことがあるのであろうか。当時のローマの税制は人頭税、所得税の他に、港湾、道路などを使用した場合、使用税が課せられた。

レビは、道の傍らにある収税所で、道行く人から使用料を取る徴税人として働いていたのであろう。徴収金はローマに届けられるので、ユダヤの民衆から反発されるのを恐れ、ユダヤ人の徴税人を雇って、徴税していた。しかし、その構造は知られており、徴税人はユダヤを裏切り、ローマに与する「売国奴」と軽蔑され、共同体から排除されていた。

この箇所には、レビの人生が凝縮されている。レビはどのようにして徴税人になったかは分からないが、共同体から排除され、侮蔑され、孤独の苦しさに心を失くし、虚ろな目をして、茫然と座っていた。主イエスは、収税所に座るレビの姿から、彼の悲しみを見通して「私に従いなさい」と声をかけられた。誰からも声を掛けられることがなかったのに、突然、「私に従いなさい」と自分を必要として、声を掛けられたレビは魂が覚醒した。人間として認められた彼は喜び勇んで、全てを捨てて、主イエスに従った。人は苦悩の中で悶々ともがいている時、ある人の一言で、ある本の一節で光が差し込み、前が開けて進めるようになることがある。レビは、主イエスの一言で自分自身を見出し、前進する希望と勇気を得たのである。

レビは喜び、主イエスを招き、また、同僚の徴税人や、共同体から排除され「罪人」と言われていた人たちを招いて、宴会を催した。大勢の人々が集まり、食卓に着いていた。これを見て、ファリサイ派の人々や律法学者たちは弟子たちに、「なぜ、あなたがたは、徴税人や罪人たちと一緒に食べたり飲んだりするのか」と文句をつけた。彼らは、罪人と交わると罪が伝染し、汚れると考え、罪人たちとは触れ合わない生活をすることで、清さが保てると主張していた。主イエスは彼らに、「医者を必要とするのは、健康な人ではなく病人である。私が来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためである」とお答えになった。主イエスが神から遣わされたのは、正しい人のためでなく、罪人を招くためである。正しい人はファリサイ派の人々を指しているが、彼らは本当に正しい人なのか。主イエスの強烈な皮肉とも取れる。著者ルカは「悔い改める」という言葉を好み、しばしば使っているが、マルコ、マタイ福音書は「罪人を招くためである」とだけ書いており、その方が、主イエスの真意を伝えていよう。主イエスは罪人と烙印され、人生を奪われた人を神の下へ呼び戻し、恵みと祝福の中で、自分の人生を生きることへと招かれた。どんな人をも「よし」と是認し、人間へと回復させたのである。このことが、主イエスによって啓示された福音そのものであった。